

# めぐみイエス・キリスト教会

2020年10月4日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第526号」



## 2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年10月4日 第一主日礼拝 午前10時  
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.60 ヨハネの黙示録第21章抜粋 p. 928

【賛美Ⅱ】 新聖歌332「主はまことのぶどうの木」 p. 528

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.18「聖なるお方」

【聖書朗読】 使徒の働き5章17節～25節(2017新約p. 241下段)

【礼拝説教】 《十二使徒の解放(見張りの兵士たち)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き5章17節～25節)

5:17 そこで、大祭司とその仲間たち、すなわちサドカイ派の者たちはみな、ねたみに燃えて立ち上がり、

5:18 使徒たちに手をかけて捕らえ、彼らを公の留置場に入れた。

5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開け、彼らを連れ出し、

5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちの言葉をすべて語りなさい」と言った。

5:21 彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間たちは集まって、最高法院、すなわちイスラエルの子らの全長老会を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を牢獄に遣わした。

5:22 ところが、下役たちが行ってみると、牢の中に彼らはいなかった。それで引き返して、こう報告した。

5:23 「牢獄は完全に鍵がかかっている、番人たちが戸口に立っていました。しかし、開けてみると、中にはだれもいませんでした。」

5:24 宮の守衛長や祭司長たちは、この言葉を聞くと、いったいどうなることかと、使徒たちのことで当惑した。

5:25 そこへ、ある人がやって来て、「ご覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、宮の中に立って人々を教えています」と告げた。

### ●ポイント1. ゼベダイの子・使徒ヤコブの場合

※使徒の働き12章1節～2節「紀元46年の大飢饉の時」(新約p.257下段)

12:1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人たちを苦しめようとしてその手を伸ばし、

12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。

### ●ポイント2. シモン・ペテロの場合

※使徒の働き12章4節～11節・18節～19節「過越の祭」(新約p.258上段)

### ●ポイント3. 主イエス様の場合

※マタイ福音書28章2節～4節・11節～14節「主の復活」(新約p.63下段)

28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。

28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

28:12 そこで祭司長たちは長老たちと共に集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

## ◎先週のメッセージの概要【前進する教会の落とし穴】

《エルサレム教会は、アツという間に大きくなりました。すべてが順調かと思われた時、アナニアとサツピラの事件が起こったのです。この事件は、初代教会において、大きな痛みともなりまた、教会全体に、神様と、そしてシモン・ペテロに対する恐れが生じたことをルカは書き記しています。

「さて使徒たちの手により、多くのしるしと不思議が人々の間で行われた」とは、病がいやすれ、そして悪霊からの解放を意味しています。まさしく主が十字架にかけられる直前に彼らに約束された事が成就したのです。「皆は心を一つにしてソロモンの回廊にいた」とは、一同が集まる場所として、宮の中にあるソロモンの回廊が、集合場所として選ばれたのです。「主を信じる者たちはますます増え、男も女も大勢になって」行きました。

この新しい群れが、いかに当時の宗教指導者たちにとって、恐るべき驚異であったことは言うまでもありません。さてルカは、「ついには病人を大通りへ運び出し、寝床の上に寝かせて、ペテロが通りかかる時には、せめてその影だけでも、病人の誰かにかかるようにするほどになった。」と書き記していますが、実はここに大きな落とし穴が潜んでいるのです。

ここには「ペテロ」の名前だけが出て来ます。彼は間違いなく使徒たちのリーダーでした。また主もそのように選ばれたのです。ゆえに、ペテロは、主イエスを三度も否むと言う、厳しい試練の中を通らされたのです。

さて、この時、人々の目はペテロに向き始めていました。それは人は目に見える存在に惹かれるからです。それゆえ主は、「しもべとしての心得」を、使徒たちに前もって教えられたのです。『「しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するでしょうか。同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行なったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』』と言いなさい。』と。

すべての栄光は主のもので、主が用いられる器は、このように何時も自分が何者であるのかを、しっかりと認識すべく必要があるのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は10月11日(日)教会にて行ないます。午後礼拝はありません。また聖書の学びと祈り会は、年内は各家庭にて行ないます。